



恰野集

憲下

特別
イ 4
3163
31(9)



寄天恋	寄日恋	寄春日恋	寄月恋	寄月見恋
寄月尋恋	寄月待恋	寄月別恋	寄月愛恋	寄月忘恋
寄月絕恋	寄三日月恋	寄星恋	寄七夕恋	寄織女恋
寄雲恋	寄雲見恋	寄霞恋	寄煙恋	寄霧恋
寄嵐恋	寄風恋	寄風待恋	忘寄雨	寄雨初恋
寄雨待恋	寄雨忍恋	寄雨增恋	寄春雨恋	寄九月雨恋
寄時雨恋	寄露恋	寄露忍恋	寄露別恋	寄露切恋
寄稻妻恋	寄雷恋	寄霜恋	寄水恋	寄霰恋
寄雪恋	寄雪恨恋	寄春風恋	寄春恋	寄春夜恋
寄夏恋	寄端午恋	寄秋風恋	寄秋恋	寄暮秋恋
寄冬恋	寄歲暮恋	寄形見恋	寄晝恋	寄暮恋

恋下目録一

寄夜恋	寄山恋	寄禁恋	寄嶺恋	寄山茂恋
寄谷恋	寄仙恋	寄岩恋	寄巖恋	寄森恋
寄里恋	寄井恋	寄田恋	寄秋田恋	寄井堰恋
寄澤恋	寄懸榭恋	寄野恋	寄秋野恋	寄原恋
寄溫泉恋	寄關恋	寄名所恋	寄陸奥名所恋	寄川恋
寄川忍恋	寄川絶恋	寄川切恋	寄淀恋	寄橋恋
寄棧恋	寄水恋	寄水泡恋	寄瀨恋	寄瀧恋
寄淵恋	寄海憑恋	寄海辺恋	寄海路恋	寄浪恋
寄浪忍恋	寄島恋	寄渚恋	寄崎恋	寄泊恋
寄汲恨恋	寄磯恋	寄濱恋	寄潮恋	寄鹽屋恋
寄舟恋	寄浦恋	寄溪恋	寄楫恋	寄泛恋

寄湖恋	寄江恋	寄池恋	寄沼恋	寄沼忍恋
寄堤恋	寄岸恋	寄筏恋	寄棹恋	寄網代恋
寄瀝盡恋	寄霖恋	寄網恋	寄網恋	寄繩恋
寄杭恋	寄柵恋	寄篝恋	寄碇恋	寄沙恋
寄石恋	寄木恋	寄樹恋	寄花恋	寄花忍恋
寄花愛恋	寄花忌恋	寄花思恋	寄花切恋	寄梅恋
寄柳恋	寄花橘恋	寄山橘恋	寄楓恋	寄楠恋
寄楸恋	寄桂恋	寄菓恋	寄松恋	寄杉恋
寄竹恋	寄篠恋	寄紅葉恋	寄紅葉初恋	寄落葉恋
寄楮恋	寄椎恋	寄杉木恋	寄朽木恋	寄真木恋
寄鹽木恋	寄埋木恋	寄草恋	寄初草恋	寄下草恋

寄殘菊恋	寄薄恋	寄芙蓉恋	寄苔恋	寄菘恋	寄藻恋	寄燕子花恋	寄芥恋	寄山振恋	寄野草恋	寄夏草恋
寄女郎花恋	寄菽恋	寄瓜恋	寄樞子恋	寄葛恋	寄神馬藻恋	寄萍恋	寄百合恋	寄藤恋	寄思草恋	寄秋草恋
寄川萱恋	寄權恋	寄笋恋	寄木槵花恋	寄蔓恋	寄濱木綿恋	寄菖蒲恋	寄紫陽花恋	寄若菜恋	寄月草恋	寄冬草恋
寄田恋	寄菽恋	寄蓼恋	寄菱恋	寄日落恋	寄蓴恋	寄芦恋	寄卯花恋	寄堇恋	寄草花恋	寄忘草恋
	寄菊恋	寄三稜草恋	寄葵恋	寄五味子恋	寄菅恋	寄海松恋	寄蓮恋	寄荇恋	寄躑躅恋	寄忍草恋

寄秋田恋	寄艾恋	寄貝恋	寄鳥恋	寄千鳥恋
寄鴨恋	寄水鳥恋	寄鴛鴦恋	寄鴉恋	寄雁恋
寄歸雁恋	寄鶴恋	寄鴛恋	寄山鳥恋	寄雉子恋
寄雛恋	寄水鷄恋	寄鴨恋	寄郭公恋	寄郭公待恋
寄鷺恋	寄鳥恋	寄鷄恋	寄鴉恋	寄鷹恋
寄鷺恋	寄巢恋	寄虫恋	寄虫忍恋	寄秋虫恋
寄夏虫恋	寄螢恋	寄蠶恋	寄蟬恋	寄蛭恋
寄蚕恋	寄松虫恋	寄蜻蛉恋	寄我柄恋	寄蛛恋
寄蛙恋	寄鯛恋	寄鯉恋	寄獸恋	寄馬恋
寄春駒恋	寄牛恋	寄照射恋	寄鹿恋	寄猪恋
寄鼈巖恋	寄虎恋	寄狩恋	寄狩場恋	寄屋恋

寄垣恋	寄柱恋	寄門恋	寄庇恋	寄簷恋
寄簾恋	寄床恋	寄筵恋	寄炭恋	寄炭竈恋
寄薪恋	寄火恋	寄火忍恋	寄蚊遣火恋	寄野火恋
寄夢恋	寄身恋	寄命恋	寄心恋	寄情恋
寄髮恋	寄元結恋 寄拂恋	寄面影恋	寄形見恋	寄淚恋
寄方違恋	寄裳恋	寄衣恋	寄夏衣恋	寄帶恋
寄禳恋	寄袖恋	寄袂恋	寄枕恋	寄枕忍恋
寄綾恋	寄錦恋	寄布恋	寄色恋	寄糸恋
寄糸契恋	寄糸絕恋	寄糸忍恋	寄緒環恋	寄絡塚恋
寄機恋	寄紐恋	寄緒恋	寄玉緒恋	寄玉恋
寄玉難恋	寄玉忍恋	寄玉筍恋	寄筍恋	寄髮恋

寄鏡恋	寄琴恋	寄笛恋	寄扇恋	寄弓恋
寄劍恋	寄刀恋	寄書恋	寄玉章恋	寄源氏物諾恋
寄物諾名恋	寄催馬樂恋	寄繪恋	寄占恋	寄燒物恋
寄道恋	寄名所恋 <small>出處</small>	寄旅恋	寄旅宿恋	寄驛恋
寄故鄉恋	寄市恋	寄樵支恋	寄盜恋	寄人恋
寄海士恋	寄小兒恋	寄禁中恋	寄新嘗會恋	寄斧恋
寄筮箕恋	寄笠恋	寄車恋	寄秤恋	寄塵恋
寄酒恋	寄木綿恋	寄幣恋	寄注連恋	寄社恋
寄世恋	寄述懷恋	寄無常恋		



怜野集卷之九

寄天慈

恋之部下

古 大宛と無き人のこころは物さごとくあはれなる人
 形 毛糸をこぼしぬ大宛小宛のつれなき歌はるるれ
 目 心ひきくはれ小宛物さごとくを井小あはれなる人
 代 一ゆき一人を誰とせしむるの空なる恋とするま
 同 誌友小まづは月さまをすくはれと空のあはれなる人
 同 家慈を何小宛とせん大宛小宛はゆきをのりあはれ
 同 大宛小宛のつれなき歌はるる恋する人空をあはれ
 形 大宛小宛とせしむる空のあはれなる恋する人
 古 大宛とせしむる恋する人空をあはれなる人
 古 月かた家分せしむる恋する人空をあはれなる人
 古 月かた家分せしむる恋する人空をあはれなる人
 詞 わづかにあはれなる人空をあはれなる人

巻下二

人真
 毛摩山紫
 女御
 伝大寺左
 実方
 実光
 松控
 与漢山
 宇子院
 忠岑
 津屋
 堀川

初 影をえぬ思ふる長月をわらわし人ふちをばらり

曼雅

形 月人の月いふふそのゆらりと心まぎらふおる光は

後位大寺

同 逢ふばらふふまゝ月をのちぢりさやえをたをり

天曆御歌

同 今えをかゝ程の月をふふ後かぬくあがやとせし

経園

初 さらばおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ

山深

同 あり人せ月あさささおれおれおれおれおれおれおれ

共之

形 面影のさねぬ人おとそつ入をうきうき秋は月の

花後

同 ちうねやあはれおれおれおれおれおれおれおれおれ

いせ

同 ちうねやあはれおれおれおれおれおれおれおれおれ

西り

代 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

盛家

同 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

定家

形 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

藤政

同 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

式子内

物 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

家隆

寄月見恋

寄月尋恋

寄月待恋

寄月別恋

後拾

いふふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

后拾母

形 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

北山式

同 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

流人おち

寄月愛恋

ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

家隆

代 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

龜院

形 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

世園

同 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

石家

同 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

宗春

代 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

秀統

同 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

藤政

寄月強恋

ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

坂上女御

古 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

と美人

後 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

同

金 ありふらふ月をのりくくみし月あやうくえをりき

為忠

寄星恋

金 三日月七つおちるをねあつてふとれとどおるをこれより 取定
 同 恋の一人もせむと川いままの星の心まがたを 折角恋
 同 くるみねのたねの星とさる相を河川はまを教ふとさ 生能
 同 心まがたのまをね板屋あなをさる星のぼりたをゆさ 不知識人
 同 君ふのまをまはりの夕たれたるふもねる家も 同
 同 我恋をたねのみの教ふねん人かたれと多たねた 同
 同 日らんがらふとふねるゆづりのほくとまねとあな 同
 同 棚橋と逢とあらりて川はらりふと小の渡りせり 魚二
 同 恋とてありんとさる夕暮りをねたさるあろく 後人ふま
 同 光くびるま物とて家とねねま棚橋つり人あまらる 同
 同 鏡ねたたをへゆとさ棚橋とさるまねねるゆとさ 同
 同 ねとていと日と君ふらうら子と棚橋とさる家と増さ 津の経伎
 同 空がわくて一中の棚橋とさるまねねるゆとさ 同
 同 棚橋とさるまねねるゆとさ 同

寄七夕恋

寄雀女恋
寄雲恋

同 逢ふのまねたさるふらうとまていつまもりまるとさ 後冷泉院
 同 棚橋少なき引糸の星とあまをむらうまをさるま 取定
 同 ととたふ恋とつれと天向あせり星のまを小社ま 取定
 同 恋とままの日のあまをいさるまをさるまのねた 取定
 同 棚橋と又も秋とねむらと逢とさるまねねるゆとさ 同
 同 高柳のつらふとふ恋のたまをねるまねねるゆとさ 同
 同 糸のらねるまをねるまをみまのねるまをねるま 同
 同 君がまをさるまのふをさるまをさるまをさるま 同
 同 ねねるまをさるまをさるまをさるまをさるま 同
 同 いづれをたあまをねるまをさるまをさるま 同
 同 いづれをたあまをねるまをさるまをさるま 同
 同 いづれをたあまをねるまをさるまをさるま 同
 同 恋とて絶ねらるるの物とねるまをさるまをさるま 同
 同 恋とて絶ねらるるの物とねるまをさるまをさるま 同
 同 恋とて絶ねらるるの物とねるまをさるまをさるま 同

初 凡あつたむらやあつたむらりふのせしむるなり

惟栄

同 夕烟雲にわすれむと我我君の心はさしあはれ

景隆

同 留止の心はあはれとてかたしつゝあはれ

上園

同 赤松のうゑの葉はあはれとてかたしつゝあはれ

信實

同 人なれず思ふの浦は燒塔の家をえまゝにまゐる

景隆

六 初 船のあはれとてかたしつゝあはれ

不知懐人

初 九のこゝろ小煙張らずとつゝとあはれ

九条右

代 ちのづの葉のあはれとてかたしつゝあはれ

梅政

同 留止の心はあはれとてかたしつゝあはれ

景隆

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

衣笠若南

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

基良

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

肥後

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

希人

寄霧恋

寄嵐恋

寄風恋

古 秋葉のころ村のふるさとをいふが如く

美心林

初 秋のこゝろ小煙張らずとつゝとあはれ

微子女王

六 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

不知懐人

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

六 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

七位

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

同 舟のあはれとてかたしつゝあはれ

同

寄る増恋

代 心ゆくわが籠るあがれ小を為増りてぞ人を恋ひき 不知漢人

後 喜立て春方やり行なわらふ人の花と散らり 同

六 花と散らりて秋のそひぢて春の日のあがれ人の花と散らり 同

同 逢ふのころ系なれどわがのこまねまのあがれはさす 同

代 春ののささふらふと春と秋人あはれでねむ社小 小町

後 月さそあがれまされえあがれ春のひばり秋のひばり 冬庭

金 月さそあがれまされえあがれ春のひばり秋のひばり 冬庭

形 又月さそあがれまされえあがれ春のひばり秋のひばり 冬庭

六 さみづねれをわが春なれ人を恋ひ小ねれね日さす 美心

古 春社小まはれ増の増ゆる人を秋の秋さす 漢人志

後 秋を本とれ果ねむを秋の月増ゆる人を秋の秋さす 日

十 月さそあがれまされえあがれ春のひばり秋のひばり 冬庭

形 月さそあがれまされえあがれ春のひばり秋のひばり 冬庭

寄露恋

同 この秋移り秋と色ねれど春分増りては後れ 色

初 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 後補

代 人さるんえんち春恋とにわら乃増ゆる人 漢人

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 後我我政

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 色園

万 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 志漢人

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 山口女王

後 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 津路夜

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 加心美

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 漢人志

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 同

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 同

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 同

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 同

同 春ふれど中もえぬ春恋とにわら乃増ゆる人 同

寄書恋

寄水恋

古 逢ふてはせむらう小舟の喜小舟の 喜をきるれ 斐之
同 毛糸やこぼれちりしるるより 衣の中をさくさく 手
法 手早振神あゝわらぬ我中に 髪を井をみありしゆい 同
法 君涙のこぼれしきよは 神をとりよの 髪小舟 音も 毛膚の髪
同 わらふの心をたれ神をたれ 髪を井あめを 髪ゆき 不知後人
同 天衣衣なる神のふらふら 今もたれを 知るは 結ん 同
同 あがれてふねをさるべし 毛津を神に 衣小舟 同
古 毛糸をたれと 衣と小舟の 髪は 今も 我を 喜も 同
古 君がなき 何しの 髪のおよび 衣を 喜も 同
法 この 衣と 髪を 衣と 衣と 衣と 衣と 衣と 同
法 物づら 衣は 衣の 衣と 衣と 衣と 衣と 同
同 朝あけ 汗の 衣小舟 衣の 衣と 衣と 衣と 同
代 衣は 衣小舟 衣と 衣と 衣と 衣と 同
法 衣は 衣小舟 衣と 衣と 衣と 衣と 同
法 衣は 衣小舟 衣と 衣と 衣と 衣と 同

寄書恋

法 逢ふてはせむらう小舟の喜小舟の 喜をきるれ 内侍
同 毛糸やこぼれちりしるるより 衣の中をさくさく 衣
法 手早振神あゝわらぬ我中に 髪を井をみありしゆい 赤衣
法 君涙のこぼれしきよは 神をとりよの 髪小舟 魚捕
同 わらふの心をたれ神をたれ 髪を井あめを 髪ゆき 教
同 天衣衣なる神のふらふら 今もたれを 知るは 結ん 同
同 あがれてふねをさるべし 毛津を神に 衣小舟 同
古 毛糸をたれと 衣と小舟の 髪は 今も 我を 喜も 同
古 君がなき 何しの 髪のおよび 衣を 喜も 同
法 この 衣と 髪を 衣と 衣と 衣と 衣と 同
法 物づら 衣は 衣の 衣と 衣と 衣と 衣と 同
同 朝あけ 汗の 衣小舟 衣の 衣と 衣と 衣と 同
代 衣は 衣小舟 衣と 衣と 衣と 衣と 同
法 衣は 衣小舟 衣と 衣と 衣と 衣と 同
法 衣は 衣小舟 衣と 衣と 衣と 衣と 同

寄田恋

影がふと見えぬのしに井を流きしものさしに
 言わのこつていれまは流くしに
 我者えきれぬのふぬるをれど
 神ねりしおののふいをえ人あはるを
 成るる堀魚井の産瓜流しに
 流くしに
 之中に波をえたる流れぬ
 秋風小あなれう然れ家分むく
 わるせ田流りしきし
 打く一君をえしよとさるる
 略のふす村田ふしを
 本代をるるまのし田を
 山陰ふつるし田のふ
 美取

美取
 不知人
 同
 小町
 同
 美取

寄山田恋

苗代のあえおますねを流せま
 山陰ふつるし田のふ
 山田ふつるし田のふ
 小山田ふつるし田のふ
 山田ふつるし田のふ
 秋の田のふつるし田のふ
 殊之すさるし小をるる
 秋の田のふつるし田のふ
 石とつるし田のふ
 糖して物せらるし田のふ
 秋の田のふつるし田のふ
 あろくしつるし田のふ
 同 秋の田のふつるし田のふ
 同 秋の田のふつるし田のふ
 同 秋の田のふつるし田のふ

美取
 同
 美取
 同
 美取
 同
 美取
 同
 美取
 同
 美取

寄井堰恋

代 秋の田のついでに水たまりを巡るがらけがれ
母 風小橋をたどる吹雪ふか小野を人ぞ恋ふるる
同 風ふくをたどる秋の田のついでに水たまり
六 秋の田小きくぬすむ君とる神のそなた
同 大の川をたどる小野をりかたぬすむ
金 後川神をたどる小野をりかたぬすむ
同 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
六 昔つづの流流くはる昔れ福のぬすむか小野を君とる
同 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
古 雲人のついでに水たまりを巡るがらけがれ

寄澤恋

寄懸植恋
寄野恋

寄秋野恋

代 秋の田のついでに水たまりを巡るがらけがれ
同 風小橋をたどる吹雪ふか小野を人ぞ恋ふるる
同 風ふくをたどる秋の田のついでに水たまり
六 秋の田小きくぬすむ君とる神のそなた
同 大の川をたどる小野をりかたぬすむ
金 後川神をたどる小野をりかたぬすむ
同 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
六 昔つづの流流くはる昔れ福のぬすむか小野を君とる
同 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
古 雲人のついでに水たまりを巡るがらけがれ
後 あふもこの川とて秋のついでに水たまりを巡るがらけがれ
六 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
代 秋の田のついでに水たまりを巡るがらけがれ
花 恋流くふく神や流る後の川乃井せき

寄系恋

寄温泉恋

寄園恋

代 秋の田のついでに水たまりを巡るがらけがれ
同 風小橋をたどる吹雪ふか小野を人ぞ恋ふるる
同 風ふくをたどる秋の田のついでに水たまり
六 秋の田小きくぬすむ君とる神のそなた
同 大の川をたどる小野をりかたぬすむ
金 後川神をたどる小野をりかたぬすむ
同 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
六 昔つづの流流くはる昔れ福のぬすむか小野を君とる
同 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
古 雲人のついでに水たまりを巡るがらけがれ
後 あふもこの川とて秋のついでに水たまりを巡るがらけがれ
六 恋流くふく神や流る後の川乃井せき
代 秋の田のついでに水たまりを巡るがらけがれ
花 恋流くふく神や流る後の川乃井せき

金 うらまへ本下後の出ありといふ人乃乾とさうらん 不知後人

同 早くとも流きおぼえそとておのぞくはまふ川のあり 同

同 白川に流成りありは成てきれそを少くみちるまき 成通

同 人たねね後の川乃ありといふものおのぞくのあり 於昭

同 形 おひわまり人小しきやあふ深川むすむねあ小袖たわむ 色刷

同 同 人たねずあつて是川のふちありとてやうら舞 天曆御製

同 同 ありてのえり教へたかえず深まゆ一層よとまれば 后御母

同 同 後ねり教へたかえずとまれば教えのありとまひひた 上漢人

同 同 ありとて小結むすべしとてねりむすむねのありとまれば 同

同 同 山城の井のありとて小結むすむねのありとまれば 同

同 同 喜ねのありとてさうらあありとてまふとてふれあり い世

同 同 ありとて何とさうらふいとあふはさそ人うらねん 後人不知

同 同 ありあ小教と人小教とて取らね小袖もねれを拜 賢実

同 同 達りいそとて田のありねれ小袖むすむねとあをねど 天武

寄水泡恋

同 是引たのちありとてはとて是れとてとてとてのみ 後言相説

同 同 達とてはつらなる名井は結ぶといはとてとてとて 八条宮

同 同 あり川殺すきとてあり泡のうらとて人小ありとて泡も い世

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 後漢人

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 侍従

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 馬内侍

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 後人不知

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

寄瀬恋

同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

同 同 ありありとてわさうとて泡のうらとて人小ありとて泡も 同

家浦恋

花 花江にぶら下り舟にうきて流すてあらわとそんとそと 上流人の
 千 船をさしあへいふいふ舟にそとと流し船一舟きり 唯規
 形 さうしてり方の流は波をみ恨てさるあまは流りさ 不知流人
 初 漢入のむはくはえ小舟舟乃若くそ光さひ君はこれ 小町
 代 意へこ桐舟を舟敷えつび流ゆらん知んたも 星守
 同 さうし小舟にゆきと流ぬねたむひのわ小舟とさうし 月獨舟
 用 大島や流ま小舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 魚庄
 同 見るあれさうすのさうすの舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 河津橋改
 同 白かれ袖の浦まふとくともさうすの舟舟舟舟舟舟舟 夕望
 同 うさかえねわくのさうすの舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 忠侍
 六 小舟に小舟に舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 債人不和
 後 故えられ浦に舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 同
 後 ぐら流まあくらわの浦まふとくともさうすの舟舟舟 忠侍
 後 ぐら流まあくらわの浦まふとくともさうすの舟舟舟 忠侍

金

人なれぬ恋はくすまは浦人な流をきつれてさすこさり 何所
 う 浦まふとくともさうすの舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 三河
 代 舟を流す舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 小舟舟舟
 同 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 後吉羽流
 形 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 上流人
 同 まくさうすの流りてさうすの舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 同 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 古 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 六 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 後 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 舟 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 舟 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 舟 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟
 舟 舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟 舟

寄湖恋 寄流恋 寄嶽恋 寄溪恋

寄江恋

後 ちがひなうらた入にせむ舟のうらむる恋やあはれすあはれ
 花 花の園にかりし涙の跡をいづれ我とまよひのなふと花の小
 月 月小のうらたのこゝろをすれむらぬ枕の香もおぼゆる後
 代 いせの海のを世の瀬に流してのまらぬとて人のかげを
 同 同 みのこゝろをすむる涙の小さき恋のこゝろ人小おちろもぎり
 花 花のうらたのこゝろを流してのまらぬとて人のかげを
 同 同 花の園にかりし涙の跡をいづれ我とまよひのなふと花の小
 代 今更にいぢむやとらまうて流してはみえ若きしあま
 月
 花 花のうらたのこゝろを流してのまらぬとて人のかげを
 同

寄岩恋

後 東海の小舟にわたるはなはた花にあはれさるるを
 月
 花 花のうらたのこゝろを流してのまらぬとて人のかげを
 同

寄堤恋

寄岸恋

寄後恋

寄掉恋

寄網代恋

寄滅冬恋

同 ぐれぬのこゝろを流してのまらぬとて人のかげを
 花 花のうらたのこゝろを流してのまらぬとて人のかげを
 同
 花 花のうらたのこゝろを流してのまらぬとて人のかげを
 同
 花 花のうらたのこゝろを流してのまらぬとて人のかげを
 同

寄羅恋

千途をいりきり細波の舟をりて一たたきりたる世なり
 川流たうかしくもささづきしする方なき恋す
 代 後より海への浦にたづねてはたか小杉をたてて
 可 あつてのそを打後すせはみよむとせどきく小ありぬ
 初 いとだ程す代名の浦小なす網のわがきく恋す
 代 誓ふひのいりてはる網のわがきくまらの敷わがら
 同 年危ぬる網の手懸の打りてはひとらとるぬひな
 同 鳴えぐし遊ぢ小あがる細きれやわ小えくもてあはぬ恋
 同 恋網のうきりぬね物な小な小の恋の袖やうす
 可 恋の津小なる舟の風といふ恋たゆまぬこれ後
 同 月をよみた恋小なるそあはぬあまのこころを
 同 限うらむの網のきくたあそよみたづとらるるま
 子 恋更たつるの橋小なる網の張す人小いひ後
 恋 うらむね恋のぬがひは恋を絶しゆとて何くも
 後 後

寄網恋

寄繩恋

代 夢よとら難波に海舟の舟の網を永くし恋後
 同 恋といふく道十川舟小なる恋のうすす
 同 恋の網のうすしと深きう張ね恨をたて
 同 うらむね恋のむがひの網をたて張とてまらう
 可 小あくは物とす先縁人のうらむ繩のきく
 古 いせの浦に誓の釣繩打りてとらとら
 後 海舟に海小とてたあまるたづ繩のわきわ我を増ね
 後 夢むる恋のむがひは繩をうす物と恋のむがひ
 同 恋の網のむがひは繩打りてとらとら
 同 打りてとらとら物いぬとらとら浦に誓のむがひ
 同 いせの浦の浦まわくす釣繩の打りたづ恋を
 同 海舟の海にきく張つてとらとら恋をまら
 同 後より恋の釣を打りてとらとら恋小あは
 代 かりたづ恋のきく繩打りてとらとら恋
 後 後

寄枕恋

寄柵恋

寄篝恋

寄礎恋

大為川せよのちんこふたはれおれんとあてこひり
と漢人

大為川せよのちんこふたはれおれんとあてこひり
同

せにぬる後の川に早泥せの邊より舟のちがみた
舟政

ちのせくらの因てあがみてあす知知後川系
祝盛

後川をさぐるちの早泥せはあがみこころせく袖はね
後波

人忘れず袖はねのちがみは後川袖のちがみせくぬりた
三河

後川をさぐるちの早泥せはあがみこころせく袖はね
世乞

あがみこころせく袖はね後川系はあがみこころせく袖はね
知家

かろくちの早泥せはあがみこころせく袖はね後川系
漢人不知

代 大船のちのせく袖はね後川系はあがみこころせく袖はね
同

大船のちのせく袖はね後川系はあがみこころせく袖はね
同

寄沙恋

寄石恋

寄木恋

夜をたまその浦たまをたまわく時や我ふこころ
不知作古

やかりの漢たまも我を不あたまこころ沖は島智
笠女島

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
と漢人

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

あつた浦の漢たまと我を不あたまこころ沖は島智
同

寄山橋恋

寄花切恋

寄梅恋

初 目下小舟と吹あす移りの花を美と見えたり
因 花より心ある物へは及びふあづまの心こころ
古 今いと君が思はれど我若の花とむらりこそ思ひん
秋 自ら心屋のまの橋花をむらりこそ思ひん
同 歳時ゆひちる花さかめつ物さむらす思ふあふん
六 ことごとく妹よあえめよかたを離れし世の心とあらけん
秋 いぬんふとをてるる梅花ちちん後の思ひごとく
同 花こそ小舟もむらり花は枝をたがながしら社ふれはる
月 つらつら一人の若き梅花小舟をさるるあつし
同 誰さむらぶの道は川柳のよももあつしあつし
同 あんちつとあつしあつしあつし川柳はあつし
後 まつらあつしあつし川柳
梅 春とくつしあつしあつしあつしあつし
同 春とくつしあつしあつしあつしあつし

希実白
 昔とく
 湯原王
 不存極老
 大武之臣
 重政
 繪
 清人ふか
 所尹

寄花橋恋

寄山橋恋

寄楓恋

寄楠恋

寄菓恋

同 いささ小舟と吹あす移りの花を美と見えたり
初 花より心ある物へは及びふあづまの心こころ
同 今いと君が思はれど我若の花とむらりこそ思ひん
同 歳時ゆひちる花さかめつ物さむらす思ふあふん
六 ことごとく妹よあえめよかたを離れし世の心とあらけん
同 いぬんふとをてるる梅花ちちん後の思ひごとく
同 花こそ小舟もむらり花は枝をたがながしら社ふれはる
月 つらつら一人の若き梅花小舟をさるるあつし
同 誰さむらぶの道は川柳のよももあつしあつし
同 あんちつとあつしあつしあつし川柳はあつし
後 まつらあつしあつし川柳
梅 春とくつしあつしあつしあつしあつし
同 春とくつしあつしあつしあつしあつし

湯原王
 不存極老
 大武之臣
 重政
 繪
 清人ふか
 所尹

寄藤原

後拾 花のつらさよをば 藤原のつらさよをば 人よとておぼえし

寄紅葉恋

干 今もつらさよのつらさをば 花のつらさをば 人よとておぼえし

寄紅葉初恋

金 今もつらさよのつらさをば 花のつらさをば 人よとておぼえし

寄紅葉恋

古 今もつらさよのつらさをば 花のつらさをば 人よとておぼえし

寄初恋

初 今もつらさよのつらさをば 花のつらさをば 人よとておぼえし

寄初恋

初 今もつらさよのつらさをば 花のつらさをば 人よとておぼえし

寄初恋

初 今もつらさよのつらさをば 花のつらさをば 人よとておぼえし

寄初恋

初 大井川をさき小湫むあるれや 今もつらさよのつらさをば 人よとておぼえし

寄初恋

初 大井川をさき小湫むあるれや 今もつらさよのつらさをば 人よとておぼえし

寄初恋

初 大井川をさき小湫むあるれや 今もつらさよのつらさをば 人よとておぼえし

寄理木恋

初 大井川をさき小湫むあるれや 今もつらさよのつらさをば 人よとておぼえし

寄草恋

初 大井川をさき小湫むあるれや 今もつらさよのつらさをば 人よとておぼえし

寄草恋

初 大井川をさき小湫むあるれや 今もつらさよのつらさをば 人よとておぼえし

万 何のたせとまががめの家とよこしく小何のあもえん
 正 此奥の後の流乃花づつるるる人すゑと後とん
 後 ちよとこの物うらふとすきと志す家此花ゆわいおらね
 同 ながすたつらとたらめ一浮名ふえこと好ましくいふまに
 同 今や又くやいよまのまゝと家さうい我のこゝろと後とん
 同 みるりこえ入ぬ家放の事さうわ社と流のふ小折ね流
 同 うらわくと恨し人の絶れと家察ふ流を思ふつらわ
 同 是引のしめうが家流びをえと後とんあふと一はま
 同 親と中世の事察ふあふのたかどく人あつた後とん
 同 流さすもつゆとやうとんうらつの地と家へあつらうす
 同 君みずと後とんあふのしきふえと後とんあふの事とせと
 同 あふまど人小えいぞ思ふまのふ小何まの事とせと
 同 奥の下の事うらわすわだあふのいおのれさう
 同 人いねあふあふと家あふのた君と後とんあふの事
 同 隆房

寄初草恋

同 みるるの流の小草の家とよこしく小何のあもえん
 同 人いねあふあふ小何まの事とせとあふ社とんと後とん
 同 ちよとこの物うらふとすきと志す家此花ゆわいおらね
 同 ながすたつらとたらめ一浮名ふえこと好ましくいふまに
 同 今や又くやいよまのまゝと家さうい我のこゝろと後とん
 同 みるりこえ入ぬ家放の事さうわ社と流のふ小折ね流
 同 うらわくと恨し人の絶れと家察ふ流を思ふつらわ
 同 是引のしめうが家流びをえと後とんあふと一はま
 同 親と中世の事察ふあふのたかどく人あつた後とん
 同 流さすもつゆとやうとんうらつの地と家へあつらうす
 同 君みずと後とんあふのしきふえと後とんあふの事とせと
 同 あふまど人小えいぞ思ふまのふ小何まの事とせと
 同 奥の下の事うらわすわだあふのいおのれさう
 同 人いねあふあふと家あふのた君と後とんあふの事
 同 隆房

寄小草恋

同 みるるの流の小草の家とよこしく小何のあもえん
 同 人いねあふあふ小何まの事とせとあふ社とんと後とん
 同 ちよとこの物うらふとすきと志す家此花ゆわいおらね
 同 ながすたつらとたらめ一浮名ふえこと好ましくいふまに
 同 今や又くやいよまのまゝと家さうい我のこゝろと後とん
 同 みるりこえ入ぬ家放の事さうわ社と流のふ小折ね流
 同 うらわくと恨し人の絶れと家察ふ流を思ふつらわ
 同 是引のしめうが家流びをえと後とんあふと一はま
 同 親と中世の事察ふあふのたかどく人あつた後とん
 同 流さすもつゆとやうとんうらつの地と家へあつらうす
 同 君みずと後とんあふのしきふえと後とんあふの事とせと
 同 あふまど人小えいぞ思ふまのふ小何まの事とせと
 同 奥の下の事うらわすわだあふのいおのれさう
 同 人いねあふあふと家あふのた君と後とんあふの事
 同 隆房

寄心学恋

秋 中ぐり子尾香かめ心学志わす世の處いふふと

魚貝

寄月学恋

月学小夜美とらすくはる移るふととくがくりさ

ふ知後人

月草小夜とすく人知家小夜と後小夜移るいぬ

同

昔より打てる人小月草の香とらとく君と社と

同

月ぐりの福より美にむせむ今と君はまう海相り

同

寄草花恋

秋此世小夜とける花の色のちとく小物とくあふ

世之

枝と好く人小夜とく女命を移る小物と極家君

希世

君こそばきれ小夜とく我君の情の小さける物良味

不知後人

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

龍後

何ぞありといふ世の處女命を移る我よりまむる

為真

女命を移るの事細打とくみまう袖と今もあま

船光

女命を移る小夜とく人知らまうか

世之

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

寄山吹恋

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

寄藤恋

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

寄百合恋

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

あつて世の處小夜とす女命を移る人知らまうか

同

寄蘇陽花恋

六 おもひにほむつらふちかぢあむのたほしひふおそくがとよ人
子秋まをのちりうたたのうたのわはるゑ君がましまぬ 春身

寄好末恋

目 いとわくせえわたのなごをわね歌の後まをしん 実七
後 ちちす紫のしひよぞ人とあふんとわかぬ恋の甲小せ 不知後人

寄蓮恋

可 佳れ名のほほと娘のまづつぐて夜不すりたたましんり 同
代 花より夜不すまるかまはなをいれそわお家なふそる 采橋政

寄童子恋

古 流つせ小福あつらふね浮草たうきまる恋て我いすの 忠岑
同 おた面小せらうし月た浮草たうたふあきや結ば後てね 美石

寄浮草恋

後 散らりぬ分は浮草とあまふんはれふた人よとさふさむはに 不長後人
六 とに夜のをひれて浮草のうたふと我えぬことるれ 人鹿

寄草蒲恋

同 ありは小ひまきうらる海のまろくぞんをあきらるる こと子
代 夏泳みあふふえね海のまろくと秋のさよふらふ 白粒
後 おたねと下物不すさわねわちあきらむ人たねが儘 躬恒

寄蓮恋

後 何れあまうら秋のひと娘て父小恋あふまよふは 後朱蓮院

目 くれむつせむのあむの浮りし果はれき人恋るるれ 菊家如鳥

金 逢らぬひにふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 河内

目 恋むといふはつらふちかぢあむのたほしひふおそくがとよ人 小一葉院

詞 あむ紫あつらふちかぢあむのたほしひふおそくがとよ人 和泉式

野 けふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ 陽明門院

目 流るるに袖どおむをむあむ紫あつらふちかぢあむのたほしひ 左巻

六 くれねの産ふあむせごらむ紫あつらふちかぢあむのたほしひ 白瀬人

後 みまは小あむちかぢあむのたほしひふおそくがとよ人 龍通

可 こそあまはすしあむあむあむあむあむあむあむあむあむ 不知後人

目 おまのあむはくも紫を娘ささむらへくもはくもはくもはくも 同

古 くれむつせむのあむの浮りし果はれき人恋るるれ 同

後 津だまの雅波のまのあむとるふちかぢあむのたほしひふおそく 美石

目 雅波がこつたむさふのちかぢあむのたほしひふおそくがとよ人 魚補

同 人このれあむはくも紫を娘ささむらへくもはくもはくもはくも 同

後 流のいさむらとありて後のむとて人のあてこととむ

致慶親王

用 亦小いなるはとありて亦小のひとありてとむ

後風

金 いたぬまのすとありて金の福のひとありてとむ

悟政

形 ともたの末葉のあてむらぬ葉の君をたてむ

とふ

同 難波のふもいともあてむらぬあてむとむ

い世

同 花をたて人のあてむらぬ若のひとありてとむ

呼俊
ふ知後人

同 何よりいともあてむらぬいともあてむとむ

同 基俊
慈徳△
九条右

同 産すの後の葉のわづらひ人のいともあてむとむ

同 誤人ふあ

同 我も難波城の若のひとありてとむ

同

嘉海松長

同 難波をいともあてむらぬ難波のいと計ふ

同 にくはくはあてむらぬいとありてとむ

同

後 亦小いなるはとありて亦小のひとありてとむ

同

金 いたぬまのすとありて金の福のひとありてとむ

い世

形 ともたの末葉のあてむらぬ葉の君をたてむ

実國

同 花をたて人のあてむらぬ若のひとありてとむ

とふ

同 何よりいともあてむらぬいともあてむとむ

同

同 産すの後の葉のわづらひ人のいともあてむとむ

同

同 我も難波城の若のひとありてとむ

同

嘉海松長

同 難波をいともあてむらぬ難波のいと計ふ

同

同 にくはくはあてむらぬいとありてとむ

同

同 いたぬまのすとありて金の福のひとありてとむ

同

同 ともたの末葉のあてむらぬ葉の君をたてむ

同

同 花をたて人のあてむらぬ若のひとありてとむ

同

寄日蔭忌

寄五味子恋

寄苦菜忌

古 梅子の手紙のほろろ来つじや我々人小こまりがらん
 指 せりすの物に花まぐくもはほろろ君をよめわらわつては此
 同 命子恋のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 後 ねたうくくしるうまきつづらうくくも世をたむじね
 代 人あつて花まぐくのほろろくくも世をたむじね
 後 又らる人下見先ね
 新 花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 六 命子恋のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 万 玉首のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 後 花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 初 君あつて花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 六 石はよせしほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 かくつてはほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね

後 人小こまりがらん
 同 命子恋のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 玉首のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 君あつて花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 石はよせしほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 かくつてはほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね

寄梅子忌

寄末摘忌

寄菱忌
寄菱忌

古 梅子の手紙のほろろ来つじや我々人小こまりがらん
 後 せりすの物に花まぐくもはほろろ君をよめわらわつては此
 同 命子恋のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 後 ねたうくくしるうまきつづらうくくも世をたむじね
 代 人あつて花まぐくのほろろくくも世をたむじね
 後 又らる人下見先ね
 新 花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 六 命子恋のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 万 玉首のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 後 花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 初 君あつて花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 六 石はよせしほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 かくつてはほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね

後 人小こまりがらん
 同 命子恋のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 玉首のほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 君あつて花まぐくのほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 石はよせしほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね
 同 かくつてはほろろあつての青ほろろ又らる人下見先ね

夢権恋

夢萩恋

夢葉恋

^形 打とてしとて福とて... ^同 蘇れ... ^六 ... ^代 ... ^同 ... ^初 ... ^代 ... ^後 ... ^形 ... ^代 ... ^後 ... ^金 ... ^詞 ...

と後人

怪来

不知後人

後二条内

鎌倉右

業平

宗子

乃備

安治師女

定頼

良暹

隆尚

日次

家時

夢秋の菊恋

夢女の夢恋

夢新草恋

夢浦草恋

^六 ... ^月 ... ^初 ... ^代 ... ^可 ... ^子 ... ^形 ... ^同 ... ^六 ... ^同 ... ^代 ... ^吉 ... ^代 ...

不知後人

大楠

と通

教忠

後人不知

法捕

是也

近衛の歌

と後人

同

鎌倉右

紀伊

不知後人

夢権

寄田急

寄秋田急

寄艾恋

代

頼むれど下れんは遠きつら高小ゆをれだ異らりし 後人ふわ

同 是引れり田の道さみりてずりかたを小をよりのと志強 同

同 門つきの田のま人の志がれだか小社ゆの志れれりする 同

同 人今今秋田にやゆをれたいまの志の志はせりねど一 同

同 後 志と志小をさへつよまの志と志の志はせりねど一 同

同 下世の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

寄貝急

よまの海は浦ほど小あされど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

同 志の志はせりねど一志の志はせりねど一志の志はせりねど一 同

寄子規詩意

寄鶯意

寄鶯意

寄鶯意

我が心もよれや都々の秋すがらふしのどかす。 漢人ふか

格 こぬいとまのちの秋と因ふ小春も幾とあるれ 月

あつたやゆきぎの森に響すうらむ秋の秋と多入その秋 月

あつたは流し川せ小春響のいもてたわてたあつたむらさき 月

あつたはとこをいよまづいふうらむあつたあつたあつた 月

あつたは子のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

寄鶯意

寄鶯意

寄鶯意

寄鶯意

寄鶯意

我が心もよれや都々の秋すがらふしのどかす。 漢人ふか

格 こぬいとまのちの秋と因ふ小春も幾とあるれ 月

あつたやゆきぎの森に響すうらむ秋の秋と多入その秋 月

あつたは流し川せ小春響のいもてたわてたあつたむらさき 月

あつたはとこをいよまづいふうらむあつたあつたあつたあつた 月

あつたは子のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

我が心もよれや都々の秋すがらふしのどかす。 漢人ふか

格 こぬいとまのちの秋と因ふ小春も幾とあるれ 月

あつたやゆきぎの森に響すうらむ秋の秋と多入その秋 月

あつたは流し川せ小春響のいもてたわてたあつたむらさき 月

あつたはとこをいよまづいふうらむあつたあつたあつたあつた 月

あつたは子のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

あつたはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた 月

寄叔虫恋

代 月夜をみればこそ思ふ事ありてわかれしはつらきことわかれぬ補
月 ことなきのよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
月 あつくしと静かたきまに空の空をみればつらきことなきよしの
同 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
格 月 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
男 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
若 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは

寄友虫恋

古 夏虫を何となく思ふこと我がこととはわかれぬれ
後 ありて思ふことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしの
月 友虫の身をみればつらきことなきよしのきこは
子 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
古 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
後 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
後 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
後 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
人 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは

寄母恋

寄電恋

寄婢恋

寄桐恋

寄葎恋

寄松虫恋

寄蟻恋

初 夏虫を何となく思ふこと我がこととはわかれぬれ 魚宗
月 夏虫を何となく思ふこと我がこととはわかれぬれ 魚宗
古 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
月 友虫の身をみればつらきことなきよしのきこは
子 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
古 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
後 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
後 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは
人 ことなきよしのきこはて後しつらき事なきよしのきこは

寄家恋

寄家恋

寄家恋

寄家恋

寄薪恋

寄火恋

花 玉着系し寝まふ人せとすさるゝとおひく字之き

同 うちとわくおれしをまきむねの能年月と備をぬん

詞 遠よりまづふあわさるいよく人をせ供するれ

六 秋よりぬ人あやふくぬとすうをとすあつへいせり

代 ぬれぬとすれ時のもまをれんぞくも人せねむさうい

後格 ちののきまの國やうらわいあつし遠くさゆい

初 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

子 あまがすあつまでとぬのる遠きこ思ひくとははか

後格 ぬれぬとすれ時のもまをれんぞくも人せねむさうい

詞 君の我が心と大系やうらうらとすみやんは

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

同 ちのりまがたれし床おさる海のちるといふかたねれ

後人不知

同

直書

後人不知

土内内

久補

式子内

後札

後人不知

おわ

覚悟

倉後

い世

紀内親王

命恋
心恋

初 此系たわすはとて張りきり賢人の名にむして
十 思ふて物人の心まこと小直くれはるるやとがれ
金 何りやうやうよとらまがらぬ人れらせいのおたぶ
初 心よのまてとねる世は井小つひ小せとちあつるれ
代 何人の心の中せとせきうべいとほるの敷や増えん
同 くととて心かえぬれあか一人れんどのちこころ
同 くとがさあふ中情をこころと替れむいせと
格 物かくとつれむつらさち賢のれと物とつらさち
格 思ふのれとつらさち賢のれと物とつらさち
時 名とつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち
月 物かくとつれむつらさち賢のれと物とつらさち
月 かびとつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち
可 何りやうやうよとらまがらぬ人れらせいのおたぶ
後拾 物とつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち

情恋
髪恋

初 人れぬ心むと小敷つは心のとてとつらさち賢のれと物とつらさち
可 思ふて物人の心まこと小直くれはるるやとがれ
可 何りやうやうよとらまがらぬ人れらせいのおたぶ
可 心よのまてとねる世は井小つひ小せとちあつるれ
可 何人の心の中せとせきうべいとほるの敷や増えん
可 くととて心かえぬれあか一人れんどのちこころ
可 くとがさあふ中情をこころと替れむいせと
可 物かくとつれむつらさち賢のれと物とつらさち
可 思ふのれとつらさち賢のれと物とつらさち
可 名とつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち
可 物かくとつれむつらさち賢のれと物とつらさち
可 かびとつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち
可 何りやうやうよとらまがらぬ人れらせいのおたぶ
後拾 物とつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち

元恋

梅恋

面恋

見恋

後恋

遺恋

初 人れぬ心むと小敷つは心のとてとつらさち賢のれと物とつらさち
可 思ふて物人の心まこと小直くれはるるやとがれ
可 何りやうやうよとらまがらぬ人れらせいのおたぶ
可 心よのまてとねる世は井小つひ小せとちあつるれ
可 何人の心の中せとせきうべいとほるの敷や増えん
可 くととて心かえぬれあか一人れんどのちこころ
可 くとがさあふ中情をこころと替れむいせと
可 物かくとつれむつらさち賢のれと物とつらさち
可 思ふのれとつらさち賢のれと物とつらさち
可 名とつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち
可 物かくとつれむつらさち賢のれと物とつらさち
可 かびとつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち
可 何りやうやうよとらまがらぬ人れらせいのおたぶ
後拾 物とつらさちの思ふは物とつらさち賢のれと物とつらさち

寄枕恋

拈 人忘れ後小袖のちのちより逢ふはあはれなるまじ

後人ふ知

千 人の心も後と人との心も計り難く袖より行くそよひが

程政

同 心はこゝろもあはれとてはなれぬとてはなれぬとてはなれぬと

程政

同 増ゆるいせいの海を袖をわけて行くは深き程に結さる

大楠

同 みせりおきてまはるの袖をいりぬき小ねねの思はれは

光り

代 我々の後と君が思ふまじむらさき袖はうらむ

栄全

同 いふまじむらさき袖はうらむとてはなれぬとてはなれぬと

梅家

同 寝の思はれは後と君が思ふまじむらさき袖はうらむ

いせ

千 ちりふらふの思はれは後と君が思ふまじむらさき袖は

久我内

同 寝の思はれは後と君が思ふまじむらさき袖はうらむ

実家

形 君が思はれは後と君が思ふまじむらさき袖はうらむ

寛孝天皇

六 袖をいりてはなれぬとてはなれぬとてはなれぬと

ふと後人

寄枕恋

寄被恋

寄枕恋

寄被恋

寄錦恋

寄布恋

寄色恋

代 知んてはなれぬ枕のちのちより逢ふはあはれなるまじ

同

同 何と又枕は君をささぐらふ人ささぐらふはなれぬとてはなれぬと

西園寺

六 我々を人ささぐらふはなれぬ枕のちのちより逢ふはあはれなるまじ

後人ふ知

形 我々を人ささぐらふはなれぬ枕のちのちより逢ふはあはれなるまじ

式子内

後 くれんをわらわさく人ささぐらふはなれぬ枕のちのちより逢ふはあはれなるまじ

諸大夫

同 心はこゝろもあはれとてはなれぬとてはなれぬと

上美人

同 我々を君をわらわさく人ささぐらふはなれぬ枕のちのちより逢ふはあはれなるまじ

乃程

六 玉河小さくす布の程ささぐらふはなれぬ枕のちのちより逢ふはあはれなるまじ

後人ふ知

同 増奥のちのち布の程ささぐらふはなれぬ枕のちのちより逢ふはあはれなるまじ

同

拈 心はこゝろもあはれとてはなれぬとてはなれぬと

上美人

同 眼はこゝろもあはれとてはなれぬとてはなれぬと

同

金 わくこととてはなれぬとてはなれぬと

珠賢

六 ちりふらふの思はれは後と君が思ふまじむらさき袖はうらむ

ふと後人

寄糸恋

古 長糸はさすしよめく小よりるそ何ぞはせお城おせ 後人不知
日 小きくて君が強わし糸とよりはきごとよ木小を如 同
日 いくかり一ゆより糸の祝々ん志むくんれごとと年を同
指 けりしけりしよめすは糸を今も人としおいふ人
金 何より一丸のほより強ねるの御小すく糸より人
日 我志と志づの志が糸すおまを強まはくくつり
同 志とこらひしよめすは糸のいとわいと老小いとときり
初 誰者小人のさ糸よりるそ我おのせは強んとすら
糸 祝糸の秀小いと志をよりるそ強てよりんと志よりああり
代 木よりいと小わらしよめすは糸と志よりるそ強ふたり
糸 長糸はさすしよめく小よりるそ何ぞはせお城おせ 長糸は
初 年頃て糸と志をよりるそ強てよりんと志よりああり
後 誰者小人のさ糸よりるそ我おのせは強んとすら
代 木よりいと小わらしよめすは糸と志よりるそ強ふたり

寄糸恋

寄糸恋
寄緒環恋
寄絡環恋

寄様恋

寄紐恋

同 思ふまむらうも木よりるそ何ぞはせお城おせ
子 糸はのこらひしよめすは糸のいとわいと老小いとときり
万 せとわらしよめすは糸のいとわいと老小いとときり
糸 誰者小人のさ糸よりるそ我おのせは強んとすら
後 木よりいと小わらしよめすは糸と志よりるそ強ふたり
糸 長糸はさすしよめく小よりるそ何ぞはせお城おせ 長糸は
初 年頃て糸と志をよりるそ強てよりんと志よりああり
後 誰者小人のさ糸よりるそ我おのせは強んとすら
代 木よりいと小わらしよめすは糸と志よりるそ強ふたり
糸 長糸はさすしよめく小よりるそ何ぞはせお城おせ 長糸は
初 年頃て糸と志をよりるそ強てよりんと志よりああり
後 誰者小人のさ糸よりるそ我おのせは強んとすら
代 木よりいと小わらしよめすは糸と志よりるそ強ふたり

寄物部名恋
寄惟馬樂恋

寄繪恋

寄占恋

寄燒物恋

寄道恋

子 逢坂の名紙をわかれ申されしとき申されぬ後ごり 不知庵人

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

同 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

寄名和恋

同 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

月 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

子 ぬれし思とて人あはれしをよ小長あざむき思ひ 伊預

寄旅者恋

寄旅者恋

寄旅者恋

寄旅者恋

寄旅者恋

寄旅者恋

寄旅者恋

あまのこころをいかにいかに思ふか
八条大い思
言角
人恋

いせの浦の響の物まらるる時
清の軽信
後程

たしなむねあする方の流し
後程
難程

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

寄人恋

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと

あまのこころをいかにいかに思ふか
いと
いと



